

手に受くる紅葉落葉に日の温み

(松本英子)

晴天、散り始めた紅葉を掌に受け止めたら温みがあった。それだけを書き、季節感たっぷり句になっています。

紅葉の極まるもみじ茶会かな

(波羅栄子)

数十本の沢山のもみじの下での茶会であったことと、十七音で伝えていきます。  
”極まる”と少し誇張気味に表現したのが効果的です。

幾重にも染つたもみじ風にゆれ

(轉 廣子)

こららも沢山のもみじであれば、その幾重なのですね。それが日に染まり揺れている。大きく景色が詠まれています。

お運びの裾のさばきに紅葉散り

(川野艶子)

もみじ茶会の一シーン、観察が細かく美しくさがよくわかります。美しい和服だけれど、主人公は紅葉、そうなのですね！

### 宇野千代顕彰会

(仮)事務局

〒740  
0017

岩国市今津町二丁目十四の二十三

☎090 9469 5478

担当 安達尚子